

# 戦 評 用 紙

平成 29 年度学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会埼玉県予選

平成 29 年 6 月 25 日 (日)

会場 本庄市総合体育館

第 1 試合

対戦	埼玉栄 高校	25	—	15	市立川越 高校
	83	15	—	14	63
		26	—	12	
		17	—	22	

決勝リーグ第 2 戦、埼玉栄は 1 勝、市立川越は 1 敗、全国大会出場にはどちらにも大事な試合。

第 1 P 両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスで始まる。市立川越は #4 を起点に流れよく得点を決めていく。埼玉栄は序盤ファーストシュートは入らないが、粘り強いリバウンドから得点を重ねていく。お互いに得点を取っていくが、市立川越のオフェンスが少し迷いだしたところで、埼玉栄がダブルチームに行くなど、激しいディフェンスからパスカットをねらい速攻につなげる。市立川越は残り 3 分でタイムアウトを取るが流れは埼玉栄。埼玉栄の #16 が良いところでシュートファウルをもらったり、3 P を 2 本など 1 P だけで 12 得点する活躍により 10 点差をつけ、25 対 15 で埼玉栄リードで第 1 P 終了。

第 2 P 出だしは埼玉栄のリズムで始まる。#8 の速攻や #9 の 3 P で点差を離していき、メンバーを少しずつ交代する。市立川越も #5 の 3 P で応戦する。市立川越は積極的にシュートを打ち、身長差のある相手に対して、何度もリバウンドボールを食らいつきながら、#17 がようやくねじ込んだ。市立川越が落ち着いていけるかと思ったが、埼玉栄も相手のリバウンドボールから激しいディフェンスによりパスカットし、レイアップシュートを決める。残り 5 分 31 対 21 で市立川越がタイムアウトを取る。その後激しいリバウンド争いの中、一進一退の攻防を続け、40 対 29 の埼玉栄リードで前半終了する。

第 3 P 埼玉栄 #16 のゴール下や市立川越 #17 のタップシュートなどお互い気持ちの良い出だし。両チームとも激しいオールコートディフェンスの中、市立川越の #4 が 3 回目のファウルでベンチに下がる。埼玉栄のダブルチームをきっかけに速攻で #8 がファウルをもらいフリースローをしっかりと決める。さらに #6 の 3 P、#17 のゴール下ターンシュートなどで点差を広げていく。18 点差となったところで市立川越がタイムアウト。その後も埼玉栄の勢いは止まらない。66 対 41 埼玉栄リードで第 3 P 終了。

第 4 P 埼玉栄はベンチメンバーがスタートになる。少しシュートミスは目立つものの埼玉栄 #18 がゴール下でリバウンドをしっかりと頑張る。追いつきたい市立川越は #11 の 3 P 2 本や #17 のリバウンドシュートや #6 #7 の速攻で得点していく。埼玉栄の高さと速さに対抗するための市立川越の運動量は試合終盤でも落ちないが、タイムアップ。83 対 63 で埼玉栄が決勝リーグ 2 勝を収めた。

(記入者：津留崎 治子)